

## 第3章 施策の方向性

---

- 1 基本目標と基本施策
- 2 プランの施策体系

## 1 基本目標と基本施策

プランの2つの目的を踏まえ、2つの基本目標を定めました。また、基本目標には「課題の整理」1から6に基づいた6つの基本施策を定めました。

### 基本目標 I

「住み慣れた地域で、つながり、支えあいながら、いきいきと暮らすことができる」

「支える側」と「支えられる側」という画一的な関係ではなく、それぞれの役割や活躍の場がある社会を目指す基本目標を定めました。これは、「誰もが自分の役割や活躍の機会を得られる共生社会」の実現に通じるものです。

#### 基本施策1 生きがいを持っていきいきと暮らす

高齢者がいきいきと暮らしていけるよう、生きがいづくりや介護予防・健康づくりの取組みを行うグループへの支援を行います。また、活動の効果が分かるよう、効果の見える化を図ります。

#### 基本施策2 地域とつながり、支えあいながら、安心して暮らす

高齢者が安心して暮らせるよう、それぞれの地域において、誰もが相談できる高齢者支援センター\*の体制づくりや、住民同士の支えあいを支援する取組みを進めます。

#### 基本施策3 認知症とともに生きる

「認知症とともに生きるまちづくり」を進めるため、認知症やその家族の居場所づくりである「D<sup>デイ</sup>カフェ」の開催や各種イベントなどの機会を活用して、認知症の人が社会参加するための取組みなどを行います。また、認知症サポーター\*が地域で積極的な活動を行うためのサポートを行います。

#### 基本施策4 住み慣れた場所で暮らし続ける

より多くの方が在宅療養を行えるよう、医療と介護の連携を進めます。また、家族の介護をしている方の負担を軽減するために、在宅サービスを利用しやすい環境を整えます。

基本施策ごとの成果を測る指標

基本施策	指標	現状値 2023年度	目標値 2026年度
1	平均自立期間*	男性:81.3年 女性:84.9年	男性:82.0年 女性:85.5年
2	ソーシャル・キャピタル(助け合い)得点*(210点満点中)	196.9点	200.0点
3	認知症になっても周りの人の助けを借りながら自宅で生活を続けたいと思う方の割合	54.1%	56.0%
4	在宅療養について希望するし、実現可能だと思う高齢者の割合	31.7%	33.0%

### 基本目標 II

「将来にわたり、よりよい介護サービスを安心して利用し続けることができる」

前プランの基本目標である、「よりよい介護サービスを安心して利用し続けることができる」に長期的な視点を加え、基本目標を定めました。

#### 基本施策5 必要な介護サービスが受けられる

高齢化の進展に伴い、介護サービスを必要とする人の増加が見込まれます。これに対応するため、より一層の介護人材の確保に取り組めます。また、介護の現場で働く人の資格取得の支援や相談窓口の設置などにより、働く人の処遇や環境の向上に努めます。

#### 基本施策6 よりよい介護サービスが受けられる

介護サービスの質を高めるために、利用者の要介護度の改善に取り組む介護サービス事業所への支援を行います。また、利用者に適した介護サービスの提供と給付の適正化に取り組めます。

基本施策ごとの成果を測る指標

基本施策	指標	現状値 2023年度	目標値 2026年度
5	必要とする職員数を確保できている市内介護サービス事業所の割合	46.4%	54.0%
6	介護サービスの満足度(10点満点中)	6.6点	7.0点

